



# Monthly Guide 2021年 8月号

りそなグループのYouTubeで、最新のマーケット情報を配信しております！



## 主要マーケットの動き

■世界株式は6カ月連続で上昇しました。新型コロナ感染再拡大が嫌気され、グローバル株式市場は半月ばに一時不安定化しましたが、長期金利の低位安定と堅調な企業収益に支えられ月末にかけて反発しました。

■米10年国債利回りは一時1.1%台、独10年国債はマイナス0.45%とそれぞれ今年2月以来の水準まで低下(価格は上昇)しました。ECB(欧州中央銀行)は政策指針を強化し低金利政策の長期化を示唆しました。

## ● 今月の金融環境



米国

FRBは7月会合で、1200億ドル/月ペースで実施している資産買い入れの縮小に向けた議論の進展を示唆。雇用回復には課題が残り、買い入れ縮小開始には時間を要するとしつつも、政策正常化に向かう姿勢を示しました。



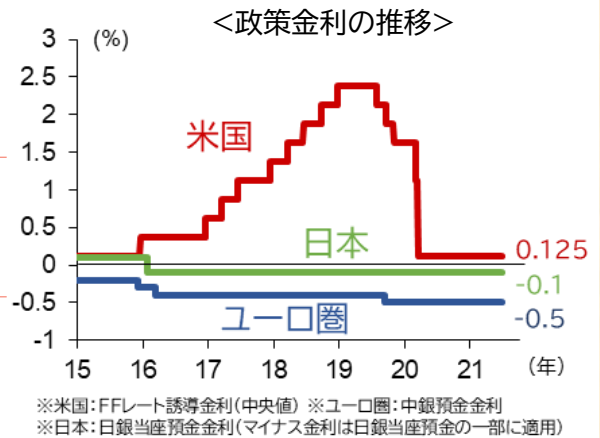
欧州

ECBは7月会合で政策指針(フォワードガイダンス)を強化しました。インフレ率が基調的に2%に達するまで利上げを急がないとし、緩和長期化を示唆しました。



日本

日銀は7月の会合で、気候変動対応オペの骨子案を公表。金利ゼロ%で2030年度まで資金供給を行うとしました。月中はETF・リート購入は見送りました。

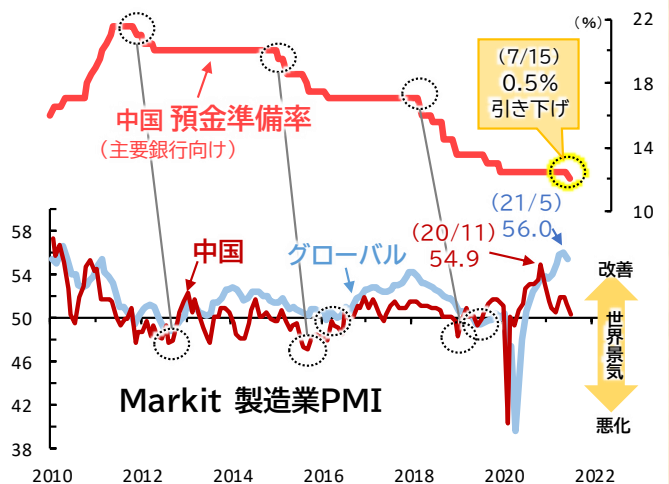


## ● 今月の注目指標 先行指標の先行指標として中国製造業PMIに注目

7月9日、中国人民銀行は中小企業への融資促進を目的に約1年半ぶりに預金準備率の引き下げを決定しました。

中国は新型コロナ感染の早期収束を背景に他国に先駆けて経済を再開し、今年1-3月期GDP成長率は前年比+18.3%の高成長となりました。しかし、内需の伸び悩みや前半までの信用抑制策の影響から、年後半の成長率は大幅鈍化が予想されています。政府が掲げる“2021年の6%超の成長”達成は確実視されるものの、5年に一度の共産党大会が開催される2022年に向けて、景気下振れリスクを未然に抑える目的から、緩和姿勢に転じたものと見られます。

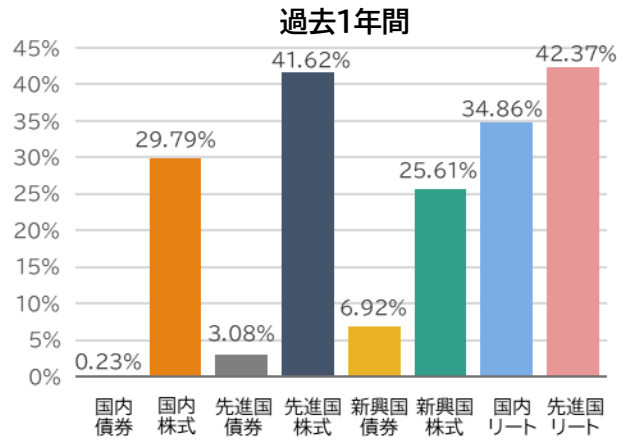
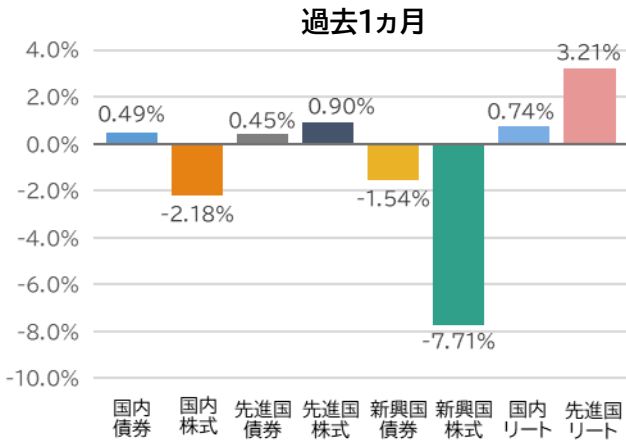
中国製造業PMIは、世界景気の短期サイクルの先行指標であるグローバル製造業PMIを3カ月~半年程度先行する傾向があります(右図)。今回の政府の対応を受け、先行指標の先行指標である中国製造業PMIが持ち直しの動きとなるか、注目されます。



【出所】 Haver analytics、ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

※本資料の使用に際し、最終ページの<本資料に関するご注意事項>をご覧ください。

## 7月末基準 各資産別 月間騰落率と振り返り(円換算ベース)



※ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成。※国内債券：NOMURA-BPI総合、国内株式：東証株価指数(TOPIX、配当込み)、先進国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)、先進国株式：MSCI-KOKUSA指数(配当込み、円ベース)、新興国債券：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円換算ベース)、新興国株式：MSCIエマージング・マーケット指数(配当込み、円換算ベース)、国内リート：東証REIT指数(配当込み)、先進国リート：S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円ベース)

### 国内債券

10年国債利回りは米長期金利に連れて1月以来の0.01%台まで低下しました。日銀は7月会合で、現行の金融緩和策の継続を決定した上で、気候変動関連分野への投融资を促す新制度の骨子案を公表しました。貸出利率は0%、年内をめどに始め、2030年まで実施する考えを示しました。展望レポートでは、2023年の物価見通しを1.0%に据え置きました。

### 先進国債券

景気回復の勢い鈍化や新型コロナウイルスの感染再拡大を背景に、米10年国債は一時2月以来の1.1%台に低下、独10年国債利回りは月末にかけてマイナス0.4%を割り込みました。ECBは物価目標を従来の「2%をやや下回る」から「上下対称2%」に変更した上で、2%の物価上昇が定着するまで現行以下の低金利政策を続ける政策指針を示しました。

### 新興国債券

新興国債券(円建て)は、通貨安が響き5ヵ月ぶりにマイナスパフォーマンスで終わりました。国別では、通貨安が進む南アフリカ、ブラジル、新型コロナウイルスの感染再拡大が深刻化するタイ、マレーシアの下落が目立ちました。

### 国内リート

東証リート指数は9ヵ月連続でプラスとなりました。相対的に高い利回りを背景に世界的にリート市場に投資資金が集まりました。用途別指数では、在宅勤務の習慣化等への期待を背景に住宅指数の上昇が目立ちました。日銀によるリート購入は4ヵ月連続で見送られました。

#### <本資料に関するご注意事項>

○本資料はりそなアセットマネジメント株式会社が作成した投資環境等に関する情報提供資料であり、販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。○本資料の作成にあたり当社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に示されている当社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、それぞれ作成時点のものであり、将来予告なしに変更されることがあります。また当社の見通し等は、将来の景気や証券価格等の動きを保証するものではありません。取引時期などの最終決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。○本資料に関わる一切の権利はりそなアセットマネジメント株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。

<ファンドの設定・運用> ■りそなアセットマネジメント 商号等/りそなアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2858号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

### 国内株式

日経平均株価は月間で5%強下落し1月以来の安値水準まで下落しました。TOPIX(東証株価指数)は2%強の下落にとどまり1900ポイントを維持しました。中国株の大幅下落の影響が両指数のパフォーマンス格差につながりました。世界的に新型コロナウイルスの感染が再拡大する中、景気に敏感な日本株に対する海外投資家の見送り姿勢が続きました。

### 先進国株式

米国ではNYダウなど主要3指数が揃って最高値を更新しました。月半ばに新型コロナウイルスの感染再拡大が嫌気され、一時不安定化する場面がありましたが、実質長期金利(名目金利-期待インフレ率)が過去最低を更新するなど、金利低下を支えにすぐに切り返しました。欧州では代表的株価指数であるSTOXX600指数が最高値を更新しました。

### 新興国株式

新興国株式(円建て)は10ヵ月ぶりに下落しました。国別では、教育産業や海外上場株に対する統制強化が嫌気された中国株の下落が目立ちました。台湾、韓国も下落し、中国を含めた東アジア3国のマイナス寄与が全体の9割を占めました。

### 先進国リート

先進国リート指数は、先進国金利の低下等を支援材料に9ヵ月連続で上昇しました。地域別では、出遅れ感の強かったカナダ、ドイツの上昇が目立ちました。セクター別では、新型コロナ変異種の感染拡大からホテル・リゾート系が下落する一方、住宅系の上昇が目立ちました。